



私の出会った本

— 大人を照らし出すかもの一家 —

池ノ内子供文庫 井上 晶子

「車減ったソレ今だーカルガモ日曜日
の引越し作戦ー無事皇居の堀へ」
(六月十七日・朝日新聞)なる新聞
記事を目にして、思わず「あれまあ、
『かもさんおとおり』そっくりだわ」と
叫んだのは、多分私ひとりではな
いだろうー？

早速「かもさんおとおり」(ぶん
とえ・ロバート・マックロスキー、
やく・わたなべしげお、福音館、一
九六五)を取り出して眺める。こち
らはボストンの街。チャールズ川の
小島で卵をかえしたかものマラード
おくさんが、8羽のひなをひきつれ
て、マラード氏の待つ公園へ引越し
する話である。セピア一色の三二場
面は、ボストンの街のたたくまいと
かもの生態を、細かに引き出してい
るーという(なにしろボストンもか
もの生態も知らないもので)。マン
ガチックな表現をとり入れて、豊か
な表情と躍動感を演出しながら、楽
しくあたたかな世界を創り出してい
る。そして、なによりも見る者の心
をなごませるのは、かもの一家をー
つまり小さな生命をいとおしむ、お

まわりさんのマイケルさんをはじめ
とする大人達の、ちょっとユーモラ
スな姿であろう(現代のカルガモ一
家をとり巻いたのは、報道陣だった
ようだが)。

こんなことを言うと、「なんと甘
ちゃんのご都合主義」という批判が、
今にも聞こえてくるようだ。「片手
で野良猫に石を投げつけ、一方の手
では飼い猫に生れた赤ん坊を始末し
ながら、『生命をいとおしむ』が聞
いてあきれれる。子どもには、生きる
に値する人生の姿をー。頼り甲斐の
ある大人の姿をー。なんて言いなが
ら、絵本見ていい気になっている大
人なんてぞっとする」というわけだ。
「まあ、そんなこと言わないで、一
度じっくりこの絵本を見てごらんよ。
大人だってホツとしたいよ。大人だ
って人間信じなければ生きていけな
いし、生きている価値もないよ」と
つぶやきながら、恐しい絵本だとも
思う。深い人間信頼の精神に裏打ち
された本物の絵本であるだけに、現
実の大人の姿を逆に照射することに
なっているのも確かだからだ。どう

やら「甘ちゃんのご都合主義」にな
るかどうかは、作者の姿勢と共に、
見る側の態度にもかかっているよう
だ。すぐれた芸術作品は、人に生き
る力を与える。本物の絵本が子ども
にだけでなく、大人にも働きかける
強い力を持ったとて、なんの不思議
がある。ただし、そんな絵本は、
大人を告発してもいるのだ。

役員・顧問の変更

- ◆理事
 - 新 森 宇一 (園部町立園部図書館)
 - 旧 高木 茂
 - 新 下戸 明夫 (峰山町立図書館)
 - 旧 田中 義一
- ◆顧問
 - 京都市中央図書館長 安田 孝夫
 - 新 岡田 勲
 - 京都市立総合資料館長 河並 秀行
 - 新 安井 茂

***** 館長の異動 *****

- 京都府立総合資料館長
 - 新 並河 秀行
 - 旧 安井 茂
- 京都市中央図書館長
 - 新 安田 孝夫
 - 旧 岡田 勲
- 京都市山科図書館長
 - 新 伊藤 修
 - 旧 太田 千孝
- 京都市北図書館長
 - 新 古川 勝
 - 旧 山口 康雄
- 岡岡市立図書館長
 - 新 野村 直温
 - 旧 平井 進
- 園部町立園部図書館長
 - 新 森 宇一
 - 旧 高木 茂
- 峰山町立図書館長
 - 新 下戸 明夫
 - 旧 田中 義一
- 八木町中央公民館長
 - 新 大狩 武夫
 - 旧 平井 豊

情報の提供について

— 事務局からお願い —

協議会のニュースや、府下の図書
館情報などを皆様にお届けしている
この「会報」も、三度目の新年度を
迎え、より充実した内容のものにし
ようと決意しております。

しかし、「会報」を皆様のものに
するためには、事務局の編集子だけ
では中々十分なことはできません。
事務局としては、より多くの情報を
皆様にお届けできるように努力をし

ていますが、事務局で
の情報収集範囲は限ら
れてしまいます。

このような状況を打開するために
府内をいくつかのブロックに分けて
その中の加盟館一館に、そのプロッ
ク内の図書館に関するニュース(新
聞記事)や行事等の情報提供をお願
いしたいと思っております。その際に
は、「会報」発行のためと御理解の上
ご協力下さいますようお願いします
また、「会報」についてのご意見
・企画の提案等がありましたら、事
務局までお寄せ下さい。

新館オープン

—精華町立図書館

精華町は今、学研都市の中核地として新聞、テレビなどで度々紹介され近い将来大きく変貌しようとしています。現在人口一万余二千二百人、地形は二、五六三平方メートルでまだまだ緑が多く小高い山々や田園風景が望めます。新館は四月五日、町役場敷地内に開館し、コンパクトではありませんが独立した建物になっています。周辺には商店や学校があり、町役場への用事を兼ねて立ち寄る人も多く、住民の方々から便利になったと喜ばれています。建物は鉄骨二



階建、延面積三百三十平方メートルで一階は一般書、児童書を配し、幼児コーナー、ブラウジングコーナー、事務室、二階は参考室兼閲覧室、研修室からなっています。新館開館に際し府立図書館の貸出文庫を利用していただきた大変助かりました。又貸出の方も一日平均三百冊を越え、BMも含めて三人体制なので連日大わらわというところです。今後多くの課題が山積してはいますが、出来るだけ住民のニーズに即応したきめ細かい図書館づくりをめざしていきたいと考えています。

田辺町立図書館・文学散歩

田辺町立図書館では、年間十二回(子ども講座六回、古典文学講座六回)の講座を開いています。

子ども講座では、文庫活動の実態からいかに子どもの活字ばなれをなくするか、という問題から、影絵・手作り教室を実際に行なうなど楽しさいっぱい。また、古典文学講座では、昭和五八年度から万葉集を中心に山城地方の文学散歩をしています。昭和六十年度の第一回古典文学講座は、去る六月二日(日)宇治方面に於いて行ないました。参加人数は十

七名と少なかつたものの古典文学に興味深い人たちが集まりました。当日は、十時から約一時間半、宇治市宇治公民館で、宇治市文化センター歴史資料館の若原英次先生より「万葉時代と宇治川文化の変遷」をテーマに、古典と歴史遺跡について講義を受けました。

昼食をとった後、十二時十五分から実際に歩いて古典文学や社寺等から親しみました。

コースは、宇治橋を渡り橋寺から宇治上神社、宇治神社を通り抜けて恵心院、そして塔島を通って平等院に行きました。

この日は天気も良く、文学散歩には最適の気候とあって、各名所では、講師の先生の説明に熱心に耳を傾けていました。(中川新也記)

おはなし会

—宇治市中央図書館

六月二六日、当館としては初めての「おはなし会」を開催しました。参加は三六人(うち母親五人)。初めての催しなのに、静かに、しかし集中しておはなしの世界を楽しんでいるのが話し手や絵をみつめる子ども達の瞳の輝きでわかります。児童

※訂正とおわび※
前号の中で字句の誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

- 二頁三段一行目：京北町・中央公民館↓美山町
- 三頁右十五行目：休館…日↓月
- 三頁右下大山崎町の欄 85・14 ↓ 84
- 三頁左下から二行目：朗るい↓明
- 右十三行目：有互協力↓相互
- 六頁三段二十三行目：開館↓館



コーナーに設置し、回を重ねてすっかり定着したテーマ別図書展示(7・8月は「ホンとたっぷり夏休み」のテーマで夏休みの本)と共に、子どもと読書の世界を結ぶおはなし会、地道に開催していきたいと考えています。「おはなしありがとう」と帰った子どものことばを力にして：。今後、毎月第四水曜日の午後三時半から四時まで、定期的におはなし会を開いていく予定です。(ただし夏休みは第四木曜日の午前十時半)

ニュースを

送ってください!!

事務局



◆ 相互協力委員会

3年目を迎えた相互協力委員会ですが、去る6月27日精華町立図書館において、今年度最初の委員会を開きました。この図書館は、新築されたばかりで、気持ちの良い雰囲気の中、館長さんから「相互協力は今後重要である」という激励の言葉をいただき、また、今回から向日市からも参加していただくことになり、委員一同気分を一新してがんばっていきたいと思います。

協議テーマは、今年度の活動計画と、従来から継続の逐次刊行物の関係ですが、特に逐次刊行物については、一歩進めて分担保存に取組んでいくことになりました。各館が逐次刊行物を廃棄される場合は、当面捨てずに分担保存がきまるまでは、箱に入れてでも保管することを、まずお願いします。

今年度の活動計画は、このほか、図書館資料の相互貸借の推進、相互協力に関する包括的な方針の策定、各論としての分担保存、相互貸借等諸規程の策定、従来より継続の事例研究 — 規程類の入手と実態調査を内容とするもので、入手した資料は資料集として各館に配布できれば、と考えています。

新委員紹介 堀内佳子(向日市立図書館)

「声の図書館だより」は六〇分テープのA面に落語、浪曲、民謡、お経、小説など音楽以外のジャンルの所蔵テープの内容を紹介し、B面にそれらの目録を収めたものです。当館では、開館当初から視覚障害者に

八幡市民図書館では、視覚障害者に対する新しいサービスとして、四月十九日に「声の図書館だより」を発行、六月十二日から毎週水曜日の午前十時〜午後二時に「電話朗読サービス」を開始しました。

八幡市民図書館での新しい取り組み——「声の図書館だより」と「電話朗読サービス」——

両サービスとも、ボランティアの方々の積極的な活動があって、初めて実現できたわけですが、小都市の身近な図書館でこそ、実施しやすく気軽に利用できるサービスだと考えています。
(尾上 日出丸記)

◆ 研修研究委員会

- 読み聞かせなどの実技で個人指導を伴う研修会では、人数制限や期間の設定に気をくばらなければ
- 一泊研修では、細部にわたる意見・情報の交換が出来たようだ
- 研修会の開催時期が、後半に集中していたのではこれは、去る3月25日開催した委員会での、59年度実務研修会反省の発言でした。

このことをふまえて委員会では、引続き60年度の取組みについて協議し、研修内容、開催条件の配慮等出来るだけ努力をして、実務研修会が各館の期待に応えられるよう、次のように計画していきたいと取り決めました。

1. 研修の内容

☆図書館業務の内の事務的部分に重点をおく。

(貸出業務・資料の収集・資料の整理・著作権・児童奉仕)

☆一泊研修の開催

(7月8・9日、宮津市 — 京都府立青少年海洋センターで)

2. 開催場所

昨年同様、府下の北部と南部に開催地を分散して参加の利便を考慮する。

3. 開催の時期

集中しないように、年度当初から取り組む。

既に、去る5月21日には貸出サービスについて研修会を終え、一泊研修会の開催時期もせまり、北部地域での開催は、「資料の整理」「製本技術」を内容として12月と3月に実施する計画が決まっております。

実務研修会が皆様のお役に立てばと委員一同が願っておりますので、多くの参加をお待ちしております。

対するサービスに取り組んでしまいたが、PRの方法は、主に盲人協会を通じての口コミと、「広報やわた」、一般紙等に記事としてとり上げてもらうぐらいで、市内在住の全ての視覚障害者に直接PRは行なっていませんでした。今回のテープは福祉課の協力を得て、始めて直接PRを行なったわけで、その反応を待っているところです。(六月二十五日現在、二人の方が新規利用者となっております。)

「電話朗読サービス」は、二月に開催した利用者とボランティアとの交流会の席で「盲人には新しい情報を得る手段が殆んどない」という意見を受け、ボランティアのサークル結成による自主事業として具体化したもので、主に新聞、雑誌の記事などを電話口で朗読するものです。

